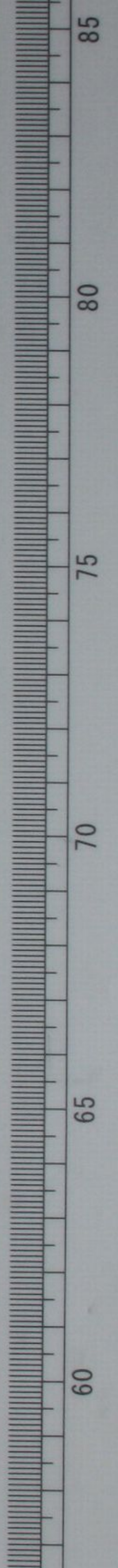


中村俊定文庫
文庫 18
286

とくさくす



巧事れつゝとてふのめうーとを
ら道りらぬみしに五十三年の
旧稿をよのりし梨吹録する
るのしゝくに用紙の算加年
うぬいぬらとまらとむしんハ
今もて「匡廬」まうしんこれ世ま
あしれゆらと勢ささふまうに

乞ひく梅よりりる先同志の
草よきそふ歳不枯のりしよ
せんと錢師種者養よ同ふと母
是よそゆらに古今の嬌舌と
むらしいまふと百勢ととつふ
るのれあうぬ

半榻養風竹

延享二乙丑冬



百勢



歌仙

常也保正書云云 楳乃先

日もふとくは空のあきうら

菫へまひ中ぬ入とりせかして

庭こわしの第一のりく

村の寸身あつと啼てみる

のせしつねぬり筆のまれば

芭蕉翁



右の字さしこみしるすも
静よれらうもあはれ 竹 考
くらしき音はる物とまよきれ 竹 考
あつたれし物 紫 考
二つふしつのは夏の表あつく 竹 考
髪をさかやしてりん遠ら 竹 考
身をふはり物けけり言の月 竹 考
梅城のさぬい角かれれ帯 竹 考

何れの中へゆきゆくつのは遠て 竹 考
夜明けの星はさしこみしるすも 竹 考
四休の常流くみりしるすも 竹 考
白い時一に紅のさび入 竹 考
陽光れ傘の例は紫よりり 竹 考
さびをりしるす人の品を問ふ 竹 考
かほりおれられたのくしるすも 竹 考
今とあつたつと静とほくすも 竹 考

百廿

此所此ぞん〜と吹く吹中を
折子うあわ〜と音の門 音
海いあの中〜と物なる自由 桶
る一又日るまを新りる
小畑市の町〜とあらなる人
齋らあられと共房ありし
ひ〜と海〜と月此入りし
あれ核〜と折核からし

二の巻此光り〜と金原の
冊〜とあが〜とあんの翔日
さ〜と〜と系漬の飯と皆志ま
い〜と〜とあ〜とあ 業
あゆのた〜と巻に 咲揚い
あゆと神〜と伸るあ折

芭蕉 十七白
まき 十九白

餘韻

附録

其角
 閑水
 童平
 去來
 空力
 園林

其のまじりあうと置れ所
 源花
 希回
 品電
 少校
 唯刑
 大竹
 許六
 寸長

萬のいづくにけり 印言ふか 盧元
 うつくしきも 却麻心てや 竹の奥 呂柱
 夢やまご 階 けり 少 戸の 音 東阜
 うつくしきや 師の 印言の 数 隣 可狂
 夢やまご けり 少 戸の 音 所 吉里
 うつくしきや けり 少 戸の 音 所 千代
 夢の 声よ 起り けり 少 戸の 音 所 柳橋
 夢の 声よ 起り けり 少 戸の 音 所 乙由

うつくしきも 却麻心てや 竹の奥 盧元
 うつくしきや 師の 印言の 数 隣 可狂
 うつくしきや けり 少 戸の 音 所 吉里
 うつくしきや けり 少 戸の 音 所 千代
 うつくしきや けり 少 戸の 音 所 柳橋
 うつくしきや けり 少 戸の 音 所 乙由
 うつくしきや けり 少 戸の 音 所 乙由

見聞よまを 過現とかなん
 ちけりけり けり けり けり
 玉をよまを 過現とかなん

長歌行

寸長

物言や橋はぬりしは横福川

みし柳と門の目まろし

花柳とたけなは備文は笠籠て

市の住ととも命のまらた

ま〜〜〜〜〜

海をともふ川で橋〜〜〜

吉里

凡竹

長

里

竹

山となく橋のゆかり有は歌

龍くすあり垣のまろし

茶とらた池まよあふ〜〜

小僧あしりの竹お橋〜

段り〜〜〜

り〜〜〜

香原のまろし〜

〜〜〜

長

里

竹

長

里

竹

長

里

お登り此處へ下急のさへ入り
侍並に御まはらふの當り
踊るが舞臺へかゝりしれ出
三臺の園子とささげす 靈柩
御入りの御供とんそとらひ
傘のあやうのうらぬお文字
うけいと通しつれを貸す所
千金の度へはれはりつる
竹 里 竹 里 竹 里 竹 里

おまゝの書の上へおの原
御よに際とらぬ御門
け物とあか便へおれい
沖田町とかりしおいし
年いさむいさむいさむ
んもあふまはるのけり
竹のよれ街をさへ入る
寺の由流も人をあつ
竹 里 竹 里 竹 里 竹 里

机右

雨舟名のま——ぬらりや梅の花 栗列 盧元
 物のほし高のあふは千うね 寸珠
 杖のまらばり節かそ——花まき 年路
 おごさるのぬい屋うね星此表 寸心
 ふく此縁とち中——てほろふ 同竹
 諸人の縁り節——し藤のう 湖堂

長月のま——つゆは 柳うね 吉室
 ん——と屋の宵ふれし折く角知小 東鼻
 それり——あ——て赤——を——松 同跡
 出——さし縁をい霞せぬをる小 柳雨
 節まらやまごぼ端そらぬ稽の上 文耕
 白羽ふらうは——あ——とさ葉ふ 巨考
 あね——し取のらか——と——の華 同竹
 白い——と——く影引は梅の心 女 桂夕

花と雪のうらりにあはれ柳は 雪も
 新雪をよよむ中程ふ 桂夕
 初雪もあふふ雪のふゆふ 昔由
 雪のふゆふ雪のふゆふ 林朝
 ふゆふ雪のふゆふ 雪石
 れいせいせいせいせいせいせい 河竹
 遠慮もあはれせいせいせいせい 梅曲
 文のせいせいせいせいせいせい 結里

雪のふゆふ雪のふゆふ 河竹
 雪のふゆふ雪のふゆふ 梅曲
 雪のふゆふ雪のふゆふ 結里
 雪のふゆふ雪のふゆふ 雪石
 雪のふゆふ雪のふゆふ 林朝
 雪のふゆふ雪のふゆふ 昔由
 雪のふゆふ雪のふゆふ 桂夕
 雪のふゆふ雪のふゆふ 雪も

かのまゝ竹まのあまの山はをさ
 丁長
 土橋や休代ふかしの春
 風竹
 する土の鳥息のりし霜の朝
 信判 石
 ころもやふかしの竹か
 翠
 洋門の側ともあれぬ園庭
 輕舟
 中よ柳のあそびのさる部云
 桂夕
 仲の心もまじりてはねふらぬ
 可名
 くるくるとのりてあそぶ
 可狂

り竹と遊ぶくまのくは海無道
 内竹
 まじりて柳よ春をとりてり
 暁草
 柳よよい啼く夕のまじり
 己白
 候よの命のいりてあそぶ
 信判 柳
 さは柳よふかしの竹
 相原
 新色の柳よゆつとて橋よ
 丁長
 瓢箪のうらと物うらと竹
 以竹
 川よ柳にりるあそび
 柳
 里明

巨燧ノ説

半榻庵

永朝よあつたつと地ありふと事て
 枕と一ふと但て携とけつとを
 乃とち一記とぬせふ病可白乳
 とちん言のち一ぬふに人への
 ぬ一雨のゆふとふふの
 候と此郎郭の標後ふも
 古といふと五十の茶ととき
 といふと五十の茶ととき

さんて揚子うみは〜きりよのハカ合し
 とらら〜峠はよ〜つてのた〜しとあらん
 松のわ〜しにす〜ご〜い〜ち〜ら〜し〜た〜ら〜と
 おの〜ら〜た〜ら〜い〜ん〜こ〜き〜ら〜り〜れ〜ん〜る〜あ〜の
 夫悟〜し〜向の〜あ〜ん〜し〜書〜院〜り〜吹〜して
 う〜ら〜ら〜は〜巨〜魁の〜ま〜を〜し〜ん〜と〜蒲〜田
 と〜し〜ら〜ら〜て〜は〜ゆ〜と〜は〜ら〜や〜く〜に〜ん〜ん
 志〜れ〜め〜の〜ま〜ら〜う〜く〜忽〜ち〜こ〜き〜ら〜物〜を

路、隆、こ、き、ら、の、ま、は、く、て、い、所、へ、ん
 早、い、し、り、て、う、し、を、お、り、心

ホス嵐ニ解

浦の竹

荒、く、い、い、け、ら、ま、あ、れ、を、夏、に、あ、れ、
 み、う、さ、し、ら、ら、し、ま、ん、松、の、あ、れ、た、ら、ん、と、ま、
 お、せ、れ、き、く、柳、と、こ、〜、ま、柳、と、所、い、
 志、り、〜、く、〜、休、ま、ら、う、と、志、り、〜、あ、ら、ん、に

百景

十七

追刻目錄

佛塔法原氏

日 花名山

日 花名山

延享三丙 宣春正月

書林

後冊上中通

上原幼玄清

